

[ドウシ・テ]

道志 手帖

Autumn 2018 no.21



道志の民話

③ 湯元の河童(かわわっぱ) 大栗地区

湯元の河童

人間のうしろから手を突っ込んで、しりごだまというのがあるらしいが、それを抜いて食べるのが何よりの好物。

それでもつて、この大栗の下のヨウベエ爺さん。この向こうに耕地がある。

そこへ仕事に行つて、帰つてくるといふと、牛淵というところに橋がかかっている。そこをどうしても川渡らんきやあ家に帰れない。そこをどうしてもと、毎晩、いいかげんな小僧が後から来ちゃあ、ちょこんちょこんてけつをなせる。

「どうも、河童が、毎晩おれが通ると、日の暮れに通ると、けつをなせる。何かうまい方法はないか」といふで、考えて、ヤカンのふたを、これ針金でもつてけつへつけて、それでその晩通るといふと、また、河童の小僧が出て来て、けつなせて、なんぼなせても、鉄のふたかぶせとつたから、どうしようもねえ。それで、河童が、「おじいさんのけつは、かなつけつで駄目だ」って、それつきり来なくなった。

道志手帖

Autumn 2018 no.21

Contents



表紙写真

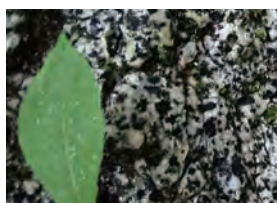
(2018.9.12)

新生代第三紀の二枚貝カネ
ハラヒオウギの化石。道志
の石の七不思議の一つで
「大室山の介殻石」(貝石)
と呼ばれる。

What's
"Doshi-techo"?

「道志手帖」とは？

略して「ドウシテ」。「どうしてどんなところ？」という関心から生まれた、道志村地域おこし協力隊を中心とした有志による冊子です。村で生活していて気になったこと、おもしろいなおもったこと、発見や驚きを、年4回報告していきます。2016年度からは新しい書き手による誌面をお届けします。書き手は常時募集しています。どなたでもお気軽にお問い合わせください。



[特集]

石は語る …4

[寄稿] 道志と横浜 歴史を紡ぐ給水船『道志丸』

中嶋拓哉 …8

[連載]

道志の民話③湯元の河童 仲井義晶 …2

どうしの山 山みちマップ⑨ワラビタタキ(赤鞍ヶ岳)…巖道峠 石川敬子 …10

協力隊だより⑩ …12

お仕事拝見⑩山口直仁さん 仲井義晶 …16

野の幸山の幸⑥ツノハシバミ …16

道志手帖 20 号に掲載されたムササビの物語に関して

7 月山梨鳥獣保護センターを再度訪問、ムササビ達は大切に育てられています。

この際、職員の方から道志村から保護された今回のムササビ達は「ワカヤマムササビ」でなく「ムササビ」という名称であるので訂正してほしいとの事。また野生動物は一般にストレスに弱く、ことにムササビはそうなので、一般公開はしていないとの事です。

保護した方が良いかなと思われる状況の野生動物に遭遇された際、最初に必ず道志村役場にご連絡してください。(佐藤八重子)

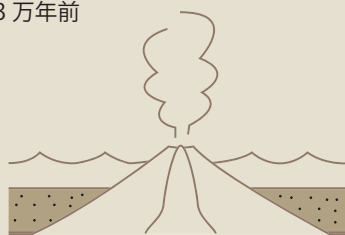
石

は語る

道志の大地の成り立ち

①およそ 3390 ～ 2303 万年前

海浸・島時代



本州の南の海で、海底火山が噴火を繰り返し、噴火により海の生きものが埋められ堆積していきました。

②およそ 1500 ～ 100 万年前

衝突・大変動時代



さらに伊豆半島がやってきて衝突し丹沢山地がさらに隆起しました（100 万年前頃）。

南方の海にあった島（①）がフィリピン海プレートに乗って北上し、現在の本州に衝突しました（500 万年前頃）。これが現在の丹沢山地です。

同時に地下のマグマによって持ち上げられ丹沢山地が隆起しました（700 ～ 400 万年前頃）。



③丹沢山地誕生～現在

富士山（や他の火山）が何度も噴火。地表が火山灰に覆われて行きました。

石は、私たちの身のまわりにあるもののなかで、もっとも古いものといえるかもしれません。何万年、何億年という時間がたっても、石は残り、長い年月のあいだの出来事を、私たちに想像させてくれます。

まだ「道志」という呼び名もないはるか昔、この地はどうやってできたのでしょうか。どんな生きものが住み、どんな環境だったのでしょうか。

また、現在の村の中心を流れる道志川は、一体いつごろできたのでしょうか。どれほどの時間をかけて、深い谷が削られてきたのでしょうか。そして、私たちが今住んでいる場所には、かつて何があったのでしょうか。

一つの石を見て、太古の世界を想像する。特集前半では、大地の成り立ちについて想像します。後半では人と石の関わりについても見ていきます。

・道志の地質と地形

丹沢山地が衝突したりマグマで持ち上げられたり、大きな圧力を受けたことで（上図参照）、地質が複雑に混ざりました。道志の地質はおおまかにみると、マグマが固まった岩とそのまわりの丹沢山地の地層から成っているといえます。

丹沢山地が衝突したときのひずみが断層（地層や岩石が破壊されてでき、それを境に地質がずれているところ）として残り、それに沿うようにして水による浸食が進み道志川ができました（道志川断層）。

道志の「石」について知るには

○参考図書・URL

伊藤堅吉『道志七里』

神奈川県立生命の星・地球博物館『かながわの自然図鑑①

新版岩石・鉱物・地層』有隣堂、2016

斎藤靖二『新装ワイド版自然景観の読み方 日本列島の生い立ちを読む』岩波書店、2007

日本シームレス地質図 (<https://gbank.gsj.jp/seamless/maps.html>)

○施設 みなもと体験館道志・久保分校（道志村 2167）

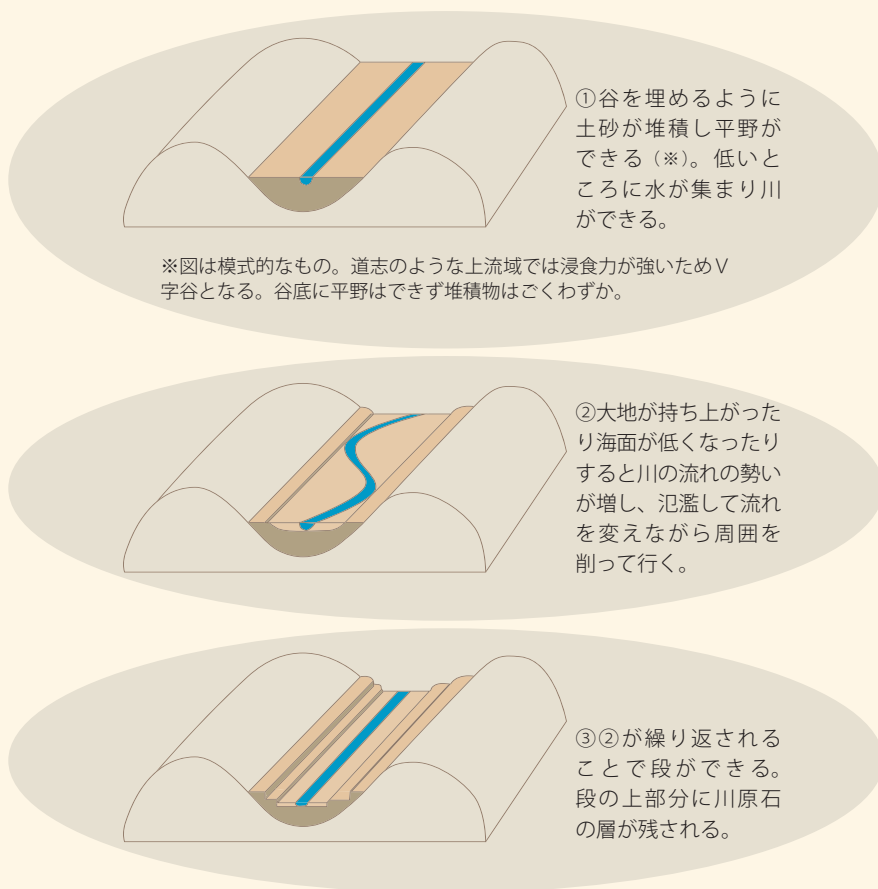
私たちが生活しているのは およそ3万年前の川床

道志川が現在のような地形を作り始めたのは100万年〜数10万年前ではないかといわれています（※右頁参照。詳しい調査はされていません）。その間、川は流れを変えながら谷

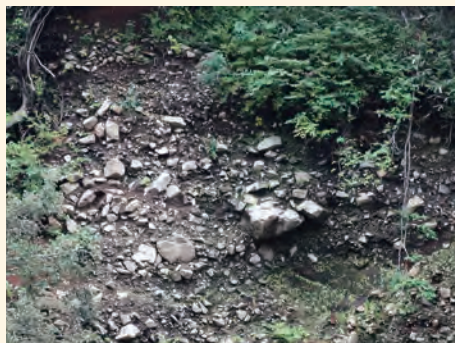
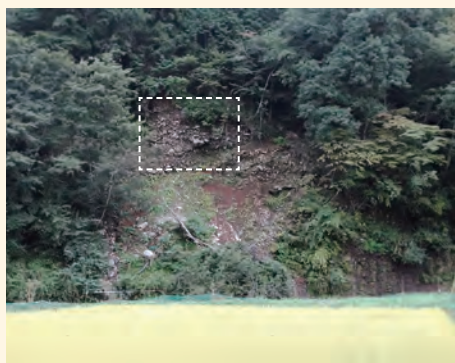
を削ってきました。さまざまな環境の変化により川の流れの勢が増すと、より深く川床が削れていきます。その繰り返しのなかで、かつての川床が現在の川の両岸に

階段のように残る地形（河岸段丘）が出来ました。現在集落があるのはその段の上。私たちが今暮らししている場所は、何万年も前は道志川の底だったのです。

河岸段丘の成り立ち



「川床の跡」はこんなところに



フィッシングセンター（神地）の少し上流の道志川右岸の崖に見られる川床の跡（点線囲み部分を拡大したものが下写真）。当時の川原石が崖に現れているようすが国道からよく見える。



久保周辺の地形図に段丘を示したもの。等高線の間隔から段丘の崖の部分と平らな部分が読み取れる。



久保〜野原遊歩道のウグイスの滝へ降りて行く山道（上図●地点）でも、角が丸くなったこぶし大の石が見られる。角がとれていることは川で磨かれた証。

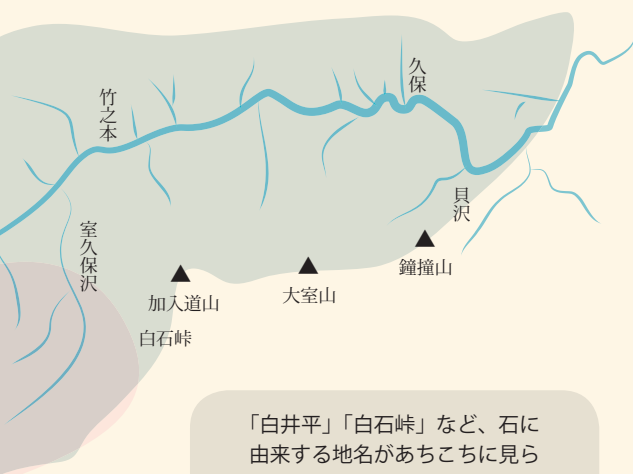


大理石になり
きっていない
(結晶化してい
ない) サンゴ (赤
枠内部分) が
見られる石 (室
久保産)。

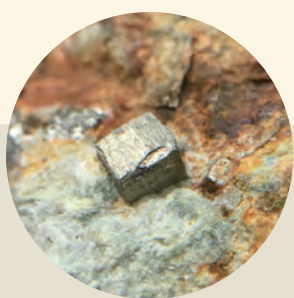
サンゴの 化石



キクメイシサンゴ



「白井平」「白石峠」など、石に
由来する地名があちこちに見ら
れます



黄鉄鉱

● 金色に光る立方体の結晶になる鉱
物で、川原の石に見られます。村で
は「ジャカ」と呼ぶようです。

● その昔、金塊がでた！と大騒ぎに
なったこともあったとか。



カネハラヒオウギの化石 (貝石)

● 「大室山の介殻石」(※1) として道志の石の七不思議の
ひとつに挙げられています(『道志七里』55頁)。大室山中腹
の大群沢の支流・貝沢(約1100万年前の地層※2)でたくさん
見られます。村では貝の化石は「貝石」と呼ばれ、庭石や
置物に加工したりして親しまれてきました。

● カネハラヒオウギは新生代第3紀中新世(※3)に北海道
南部〜関東に生息していた二枚貝で、ホタテガイのなかま
です。冷たい海に棲み、道志村を含む丹沢地域が、この化
石が見つかる南限にあたります。当時はこのあたりに寒流
と暖流の境があったようです。

● 丹沢の加入道山(約1500万年前の地層※4)からは暖かい海
に棲んでいた造礁サンゴの化石が見つかります。約400万
年のあいだにこのあたりの気候が変化した(暖かい海が冷た
い海になった)ことがわかります。

● 村内ではほかにフジツボの一種などの化石が見つかって
いますが、大型のものは見つかっていません。化石として
残りにくい環境だったのでしょうか?(※5) 尾根を挟んだ
神奈川県側ではオウムガイなどの化石が発見されているた
め、道志側でも探せば見つかるのかもしれない。

※1 大室山の介殻石のことを「サンカクガイ」と記している文献が
あるが、誤り。サンカクガイは中生代の生物で、それほど古い地層
は村内で見られない。

※2 丹沢層群大山亜層群鐘撞山層

※3 今から約2300万年〜530万年前

※4 丹沢層群大山亜層群本谷川層

※5 大室山の相模原市側ではブナのなかまの葉の化石が見つかって
いる。道志側の地層は砂より大きい粒で構成されているため、すり
つぶされてしまい、植物の化石は残りにくいようだ。

道志で見られるおもな化石と鉱物

大理石



道志産大理石の加工品（水源の郷やまゆりセンター展示品。高さ30cmほど（右）。赤味がかった色が道志産大理石の特徴といわれます。

●サンゴ礁の化石からなる石灰岩がマグマの熱で変化してできるのが大理石です。村の地質は海底火山の溶岩やマグマが固まってできた岩石（室久保から上流地域※1）と、そのまわりの地層（丹沢層群大山亜層群）とに分けられます。ちょうどその境目にあたる室久保周辺で、マグマの熱によってできたいろいろな鉱物を見ることができます。

●明治32年に県の農業技師が大理石だと指摘するまでは、村では「白石」と呼び伝えられていました。

●加入道山山腹で大理石を採掘し、水車動力で板状に加工、馬で道坂峠を越えて都会へ建築貼用材として搬出していました。しかし輸送が不便で採算が合わないなか関東大震災で採掘場が壊滅、事業は頓挫してしまいました。（『道志七里』57～58頁）

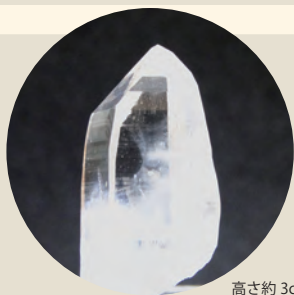
●加入道山山腹に「お茶煮」と呼ばれる場所があります。一帯にある（という）大理石でできた鍾乳洞を滴る水の音から、そう呼ばれているとか。

※1 トーナル岩・石英閃緑岩（地図上の写真。おおまかに紫色の範囲）

水晶

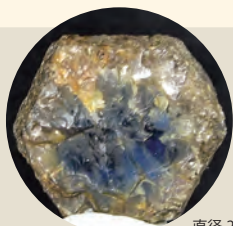
●室久保沢「水晶力尾根」で良質な水晶が見つかります。

●明治初年の頃、数雲塚の佐藤彦兵衛・佐藤彦衛門の両人は、ここで水晶の採掘をしていましたが、明治4年11月、坑道で仕事をしていた彦兵衛が生き埋めになってしまい、その後採掘が続けられることはありませんでした。



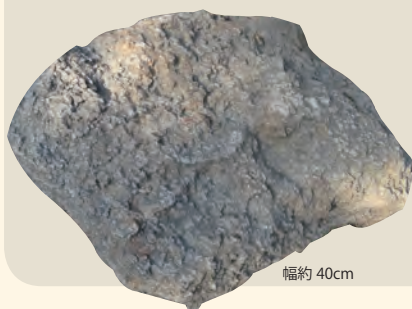
高さ約3cm

●村には水晶のほかにもいろいろな鉱物があるといわれていますが、大正4年に横浜市の水源となって以来、水質に影響がでるとして鉱物の採掘は厳しく制限され、鉱業が興ることはありませんでした。



直径2.3cm

出典：https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Cordierite-527337.jpg?uselang=ja (2018年9月12日閲覧)



幅約40cm

きんせいせき くるまいし 堇青石（車石・イボ石）

●村では堇青石は「車石」（円柱状や六角柱状で転がり易い（＝石車）ことが由来？）や「イボ石」と呼ばれていました。竹之本などの集落では、小正月のどんどん焼きで子ども達が焼いたイボ石（下写真）を取り合う行事がありました。イボの部分が発青石です。（お隣の神奈川山北町でもイボ石と呼ぶようです）

●アメリカ・コロンビア大学には、中心が群青色で縁がはちみつ色の、親指の爪ほどの大きさの美しい堇青石が収蔵されています（上写真）。解説には江戸時代末期の1868年ごろに収蔵した「とても珍しく美しい結晶」「日本の秘境・道志産」とあります。採掘したのはもしかしたら佐藤彦兵衛ら（水晶の項目参照）でしょうか？ これほど見事な結晶はその後見つからないようです。

〈編集後記〉本特集はみなもと体験館 道志・久保分校 宇野夏樹さんのご協力によってできました。化石・鉱物・地層などさまざまな観点から道志の「石」について教えて頂き、

道志と横浜 歴史を紡ぐ給水船



横浜港を走る一隻の給水船がある。
黄色い操舵室が特徴的なこの船の名前は『道志丸』。
道志と横浜の水を通じた深いつながりを今も引き継ぐ
『道志丸』をここに紹介したい。



横

浜港の給水船「道志丸」はその名前の通り、船舶への水の供給を仕事としている。主に生活用、飲料用としての水を外国航路を回る大型客船や貨物船に週3回ほど供給している。

1971年に建造された横浜港唯一の給水船であり、船の全長は30メートル、最大で360トンもの水を積むことができる。「道志丸」の初代は大正時代に給水用のはしけ(※)を引いていた曳船(えいせん)であり、給水船は代々「道志丸」の名前を受け継いでいる。

横浜での船舶給水の歴史は深い。安政元年(1854年)にペリーが黒船を率いて横浜港の沖合に停泊したことがはじまりと言われている。その後、給水事業は長らく市が担っていたが、平成10年(1998年)に現在の給水事業を行う「横浜はしけ運送事業協同組合」に移管された。

『道志丸』に触れ、
歴史に想いを馳せる

「かつて世界中の船乗りから賞賛された赤道を越えても腐らない水」。道志村



の良質な水を表すときに言い伝えられている逸話である。明治期より横浜市が道志村より取水を始めて120年、両市村は水を通じた固い絆で結ばれている。

2016年7月2日、道志村から15名が『道志丸』の見学のために横浜を訪問した。横浜港本牧ふ頭に向かうと仕事を終えたあとの『道志丸』がそこにあった。

『道志丸』は横浜市と道志村の歴史と絆をしっかりと受け継ぎ、「かつて」と言われる逸話を実現していたのだ。この事実に触れ、参加者からは驚きと喜びの声が上がった。横浜はしけ運送事業協同組合の方々からは、道志村に対する感謝と敬意の言葉をいただいた。

私はこの訪問により、『道志丸』が紡ぐ歴史と今に胸が熱くなった。水源地というつながりがこんなにも素敵なストーリーをつくっていることを村民の方に伝えたいと思った。この一隻の給水船は、今後も道志と横浜を繋ぐ象徴であり続ける。

『道志丸』は今日もその名前と歴史に誇りを持ち、横浜港を進む。

(中島拓哉)

.....巖道峠

(800m)

上はほとんど展望はありません...



巖道峠 (がんびょうとうげ)

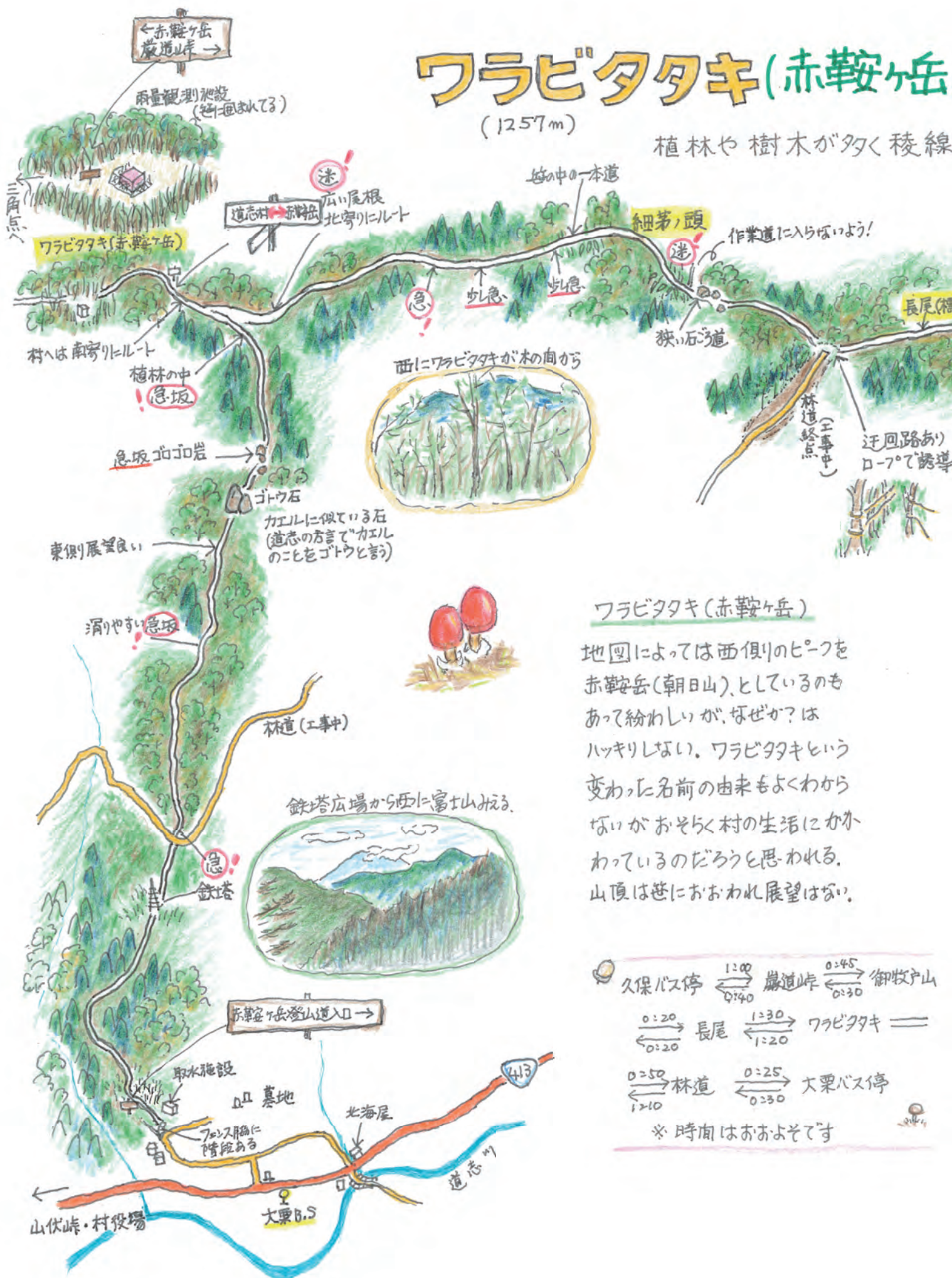
文献によると古くは強盗(がんびょう)坂と呼ばれていたようである
道志村と秋山村をつなぐ重要な峠道であるが急坂と曲がりくねった道は
要注意な林道であり走行には充分
気をつけてほしい!
工事中の林道がいつの日か南通すれば
もっと走り易くなるかも知れません。

作画 K-co 2018.9



(1257 m)

植林や樹木が多く稜線



ワラビタタキ(赤鞆ヶ岳)

地図によつては西側のピークを
赤嶽(朝日山)としているのも
あって紛れ多いが、なぜか?は
ハッキリしない。ワラビタキという
変わった名前の由来もよくわから
ないがおそらく村の生活にかか
わっているのだろうと思われる。
山頂は雲におおわれ展望はない。

久保バス停 $\xrightleftharpoons[0:40]{1:00}$ 巖道峠 $\xrightleftharpoons[0:30]{0:45}$ 御牧戸山
 $\xrightleftharpoons[0:20]{0:20}$ 長尾 $\xrightleftharpoons[1:20]{1:30}$ ワラビタキ
 $\xrightleftharpoons[1:10]{0:50}$ 林道 $\xrightleftharpoons[0:30]{0:25}$ 大栗バス停

※ 時間はおおよそです

協力隊だより

20

このページでは、地域おこし協力隊の活動を報告していきます。

文・写真 香西恵

七瀧佳至



か

ねてからやりたいと思って
いた、クレソンの栽培を、

この7月から始めています。無農
薬無化学肥料無動物性肥料で栽培

している野菜を、個人向けにお
届けする野菜セットで販売した
り、藤野の朝市や各地のマルシェ
などで販売したりしています。9

月15・16日には、東京・青山で開
催された全国の協力隊によるマル
シェに参加してきました。

7～8月 畑と出店のようす



畑

@川原畑

7月11日、川原畑の畑では、ナスや
トウモロコシ、トマトなどたくさん
の夏野菜がぐんぐん育っています。



7月3日（上）と8月7日（右）には、
藤野で開催される「ピオ市」に出店しま
した。



9/15・16 全国地域おこし協力隊マルシェ



9月15・16日に青山で開催された全国地域おこし協力隊マルシェ（青山ファーマーズマー
ケット）。全国46市町村の協力隊が参加して各地の特産品やこだわりの農産物を持って
集結した初めての試みでした。抱井さんのはちみつや千々輪さんのクレソンなど、道志
の農産物を多くのかたに手に取っていただくことができました。

9/7 野菜を収穫・納品



インゲンはあまり好きではありませんでしたが、自分でつくったインゲンを茹でてマヨネーズをつけてみたらおいしく食べられました。



鳥澤 拓太

ナ

ス、インゲン、シシトウなど、夏野菜を収穫し出荷しています。ジャガイモは器具が調達できずじゃがバタにはで



きませんでした。トウモロコシはハクビシンにやられてしまい、ほとんど収穫できませんでした。焼き芋用のサツマイモは、一度イノシシに掘り返されましたが、たくましく生い茂っています。無事収穫できることを期待しています。

毎週水曜日は横浜ビールへ、そのほかには紅椿の湯へ出荷しています。この日は富士なす、なす、インゲンを横浜ビールへ納品。横浜ビールのかたとほかの生産者のみなさんと（下）。



横浜ビールでは、毎週水曜日は道志村ランチの日。道志の野菜をふんだんに使ったメニューが味わえます。



9/6 合同・女王蜂のマーキング・餌やりなど



継ぎ箱

群れが大きくなると巣箱に入りきらなくなるので巣箱を足します。新しい巣箱に巣板を分けて入れ、新しい巣板も足し、元の巣箱の上に重ねます。

養蜂
@野原

抱井昌史



今年はミツバチの群れを増やすことが出来、15群が29群になりました。この夏は晴れの日が多かったため蜜がたくさん集ま

り、8月にも採蜜ができました。また、課題だったスズメバチによる被害への対策は、捕殺器設置の効果があり今のところ順調です。秋は餌を与えたり群れをまとめたりして、無事冬越しができるように準備をしていきます。

9/13 食用菊のようす

畑

@神地



体験農園の一角にあるハウスで4種類の食用菊を育てています。今年は昨年に比べ3倍くらい菊の生育が良いです。／先日台風（8月23・24日の台風20号）の大雨でハウス内に水がたまり、その後しばらく水がひかなかったため、一部の株が枯れてしまいました。（左上）／9月後半に収穫予定の「阿房宮」がつぼみをたくさんつけています。（左下）道の駅への出荷以外に、今後旅館などで使ってもらえないか、販売先を考えています。



女王蜂のマーキング

群れのなかから女王蜂を見分け易くするために背中に色をつけます。年によって色を変えることで女王蜂の年齢を特定することもできます。二酸化炭素を吸わせて気絶させてから着色し、片方の羽を短く切ります。これは飛べなくして、分蜂したときに捕まえ易くするためです。

新聞紙合同



小さい群れは冬を越すことができません。冬の前に強い群れに弱い群れを合体させます。そのまま合わせると群れ同士が匂いの違いにより敵対してしまいます。そこで、巣箱のあいだに切れ目を入れた新聞紙を一枚挟みます。2・3日たつと新聞紙が破られ、上下間の群れの匂いがなじんで合体が済んでいます。



餌の補給

春と秋には餌やりが必要です。砂糖水と、花粉を蜂蜜で練ったものの2種類を与えます。砂糖水は日々のエネルギー源に、花粉は幼虫が育つための食料になります。



捕殺器で捕まったスズメバチ
捕殺器を制作し巣箱の入口に設置しました。ミツバチを狙ってスズメバチがやってくると出られなくなるしくみです。(ミツバチは金網を通り抜けられます)



ニホンミツバチと混ざった群盗蜂(ほかの群れの蜜を盗む)にやってきていたニホンミツバチごと巣箱を移動させてしまったため、2種が同居するようすが見られました。(腹部が黒いものがニホンミツバチ)

9/13 畑周辺の草刈り



板橋の畑のようす。9月4・5日の台風21号の強風で柵の一部が倒れてしまいました。(左)／エゴマ(中)、落花生(右)、里芋、白菜、大根、ゴボウなどを育てています。

お仕事拝見 ⑩ オートサロン山口経営 山口直仁さん



作画 仲井義晶

野の幸 山の幸

第6回 ツノハシバミ

リスやムササビ、山の動物たちのごちそう。
ツノハシバミの実をいただきます。



水気のある外側の緑の果皮をとると、なかから小指の爪ほどの大きさのどんぐりのような固い種ができます。これをさらにハサミで割ると……



動物たちより一足早く味見をさせてもらいます。雨上がりの山へ入り両手に持ちきれないほど採りました。(村内の一部の山では蛭対策が必要です。雨上がりなどは特に注意。)



ようやく食べられる部分が！炒るとほんのり甘くコクのある匂い。一粒かじるとびっくりするおいしさ。お肉のような濃い旨み。動物たちに人気のわけがわかりました。

採集日：9月12日



道志村地域おこし協力隊

協力隊へのご意見や本誌のご感想をお聞かせください。
お気軽に左記の宛先へご連絡ください。